

私たちのアクションで 変えていこう「ごみのコト」

金山町の家庭から排出されている生活ごみの量は年間約944tになり、
町民一人が1日あたりに排出するごみの量に換算すると約538gになります。
これだけのごみがどのように回収され処分場に運搬されているのか。
ごみの捨て方やマナーについて改めて考えてみましょう。



①40年以上、町のくらしを支える今井直俊さん。②100か所以上ある集積所。1か所ずつ丁寧に作業を行います。③小さなおみ袋でも水分を含んだごみは重く、片手で運ぶのに一苦労します。④不透明なごみ袋は何が入っているかわかりません。そのため重さや硬さで判断します。⑤分別された資源ごみ。⑥すべての集積所をスムーズにまわるには町民の皆さんが時間通りにごみを搬入していただく必要があります。⑦丁寧に洗われた資源ごみ。

くらしを支えた40年

昭和55年から40年以上にわたり町のごみ収集を行っている今井直俊さん（十日町）。収集作業は朝7時50分に今井さんの自宅を出発し、地区区分Aの日は十日町、七日町、山崎、羽場、内町の順に、地区区分Bの日は飛森、朴山、中田、有屋、明安の順番に町内にある100箇所以上の集積所をまわります。ごみの量が多い日や違反者がいる日には、収集作業に約8時間もかかる事があるそうですが、どんな時でも他の車や通行人の妨げにならないように細心の注意を払いながら、収集作業を行っています。今井さんは「この仕事は季節を問わず町民のくらしに必要な仕事です」と語ります。私たちの日々のくらしは、今井さんをはじめとする方々の努力と思いやりの気持ちによって支えられ、成り立っているのです。

生活ごみの量とごみ処理費用

金山町の生活ごみの排出量（令和5年度実績値）は可燃ごみ約834・10t、不燃ごみ約44・02t、粗大ごみ約2・46t、資源ごみ約63・58t、合計944・16tになります。また、それらを処分するために、燃えるごみは「エコプラザがみ」へ、燃えないごみや資源ごみは「リサイクルプラザがみ」に運ばれ、町は処理場の運営費として82,585,000円を負担しています。

過去には危険な事故も！

約10年前には燃えないごみに混入した可燃物がごみ収集車内で発火し、パッカー車の内部で火災が起きた事故が発生しました。発火時の今井さんの冷静な判断により収集したごみをパッカー車の内部から取り出し、消火したことによって大事には至りませんでした。が、一歩間違えば人命に関わる大きな事故に繋がっていたかもしれません。

パッカー車



「清掃車」「集塵車」ともよばれ、主に燃えるごみと燃えないごみを収集している。プレス機によってごみを圧縮し、積載効率を向上させている。

平ボディ



平ボディトラックでは主にビンや缶、ペットボトル、事業所の生ごみなどを収集している。1.5tまで集積が可能。

／今井さんに学ぶ／

ポイント6選

4

ごみ袋の空気を抜こう

ごみ袋に空気が詰まっていると
パッカー車の回転盤によって袋が破裂します

5

しっかり袋を結ぼう

しっかり袋が結ばれていないと
収集の際にごみがばらけてしまいます

6

朝7時から8時までにごみを集積所へ

8時までにごみを搬入することによって
スムーズに収集することが出来ます

1

資源ごみは洗って捨てよう

汚れているとリサイクルできません
水でしっかりすすぎましょう

2

竹串などは折りましょう

竹串など先端の尖ったものは袋を破ります
折ってから捨てるようにしましょう

3

生ごみの水を切ろう

生ごみの重さの約80%は水分です
よく水を切ってから捨てましょう

勘違い・間違い
に注意！

食用油などボトル

食用油のプラスチックボトルや
チューブ型のプラスチックごみは
「燃えるゴミ」です。汚れや臭い
が取れないごみは資源ごみとして
出さないでください。

ライターと乾電池

乾電池とライターをごみに出す
場合は一緒の袋に入れないでくだ
さい。それぞれ別の透明な袋に入
れましょう。

粗大ごみ

令和6年4月から粗大ごみを
「可燃性粗大ごみ」と「不燃性粗
大ごみ」に分けて収集しています。
分別区分をご確認ください。

違反ステッカー

金山町では違反したごみ袋等に
「違反ステッカー」を貼って指導
を行っています。違反ステッカー
を貼られた場合は、集積所にごみ
を回収しにいきましよう。

少しの意識で大きく変わる

あなたも起こそう小さなアクション！

「わたし達は町民の皆さんとのコミュニケー
ションを意識しながら作業を行っています。分
別やごみの出し方について分からない事があれ
ば気軽に声をかけてほしい」と晃司さん。可燃
ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、資源ごみ…ごみの
種類と分別方法は様々で、全てを覚えるのは難
しいかもしれませんが、しかし、「正しいごみの
出し方」や「リサイクル活動」へ全町民が取り
組むことで、ごみの減量化が図られます。また、
より効率的なごみ処理が実現し、年間8200
万円ほど使われているごみ処理費用を削減する
ことができます。今井さんは「まずは雑誌や新
聞のリサイクルなど簡単なものから少しだけ意

識を変えてみてほしい」と語ります。ごみを減
らすということは地球環境や、町の環境美化だ
けでなく家庭にとっても優しいのです。
金山町では今年度4月から「マイボトル運動」
を開始しました。この運動はペットボトル飲料
を出来るだけ購入せずに繰り返し利用が可能な
「マイボトル」を持参し、プラスチックごみを
削減する運動です。「マイバック運動」と同様
に小さな取り組みかもしれませんが、一人一人
が少し意識を高めるだけで削減できるごみの量
を大きく変えることが出来ます。みなさんも身
近なところから少しだけ生活の意識を高めて小
さなアクションを起こしていきましよう。

詳しくは町公式ホームページを
ご確認ください▼

